

コロナ禍の社会情勢の中で、本校はどのように就職指導を行っているかを述べてみます。

飲食、アパレル、宿泊業の業界を中心に厳しい状況であることはメディアでも報道されています。ただ、本校への求人数は、昨年度より若干減少した程度で、世間で騒がれているほど採用を大きく減らした事業所はそう多くはありません。逆に出雲地区では、販売や建築関係の求人が僅かに増加している状況です。

これまで就職指導部では、就職希望の3年生を対象に模擬面接練習を行ってきました。次は10月16日の全国一斉の就職選考開始に向け、個々の面接練習の実施を考えています。また、本校と家庭との連携強化を図る目的として昨年度から始めた『就職ノート』を用いて、保護者の方々の情報交換を密に行い、生徒や保護者の方々の就職に関する不安を少しでも取り除けるよう努力しています。就職活動をひたむき行う生徒の皆さんと、熱心にサポートを続けて



就職活動の現況報告とその対応

就職指導部長 春日 啓伸

出雲北陵月報

No. 421

令和2年9月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

- おられる保護者の方々に、本校の教職員一丸となって支援をしています。生徒の皆さんは、今自分が取り組んでいることを精一杯行い、就職試験に向けて、準備を十分に行うていただきたいと思えます。
- 結びに、試験に臨む皆さんに次の事に注意を図ってくれるようお願いしておきます。
- ① 授業に真剣に臨む。予習という準備を怠らずに事に臨むことは大切です。
 - ② 掃除も気を抜かずにしつかり取り組む。掃除をすることで、事に取り組み姿勢が磨かれます。
 - ③ 健康維持を図る。体が資本です。この時期の病気や怪我に注意してください。
- しっかりと準備しておけば、必ず道は拓けます。自信を持って目標に向け邁進しよう。

令和2年度 学園祭

テーマ『震えるぞハート 燃え尽きるほどヒート 刻むぞ北陵のビート』

体育祭 / 9月1日(火) 出雲ドーム 文化祭 / 9月3日(木) 本校



体育祭	ポスターコンクール
優勝 1年3組 (グリーン)	最優秀賞 原 舞夏 (3・6)
2位 3年5組 (ネイビー)	優秀賞 祝部 閑 (3・2)
3位 3年1組 (アクア)	
体育祭Tシャツ	文化祭
最優秀賞 3年5組	弁論大会最優秀賞
優秀賞 1年6組	奥井 寛太 (3・5)

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年とは様々な部分で異なった形の学園祭となった。

体育祭については初めてのドーム開催であったが、競技の選定から準備まで、生徒会を中心に意欲的に取り組んだ。競技の方は中高クラス別の20チームで競い、熱戦を繰り広げた。

文化祭は3年生が当日の企画を担当し、色々な制約の中であったが、それぞれが工夫を凝らし準備を行い、楽しむことができた。

中学生と高校1・2年生はグループに分かれてパネルを使った人文字を作成した。初めてのことで難しさもあったが、皆で協力し、素晴らしい作品となった。

コロナ禍ということ、苦労した部分も多かったが、縮小することはかりではなく、このような状況だからこそ実現したものもあり、思い出に残る学園祭となった。

卓球部

全日本卓球選手権大会(ジュニア部) 島根県予選大会
時 9月12・13日
於 島根県立体育館

〈男子シングルス〉
優勝 原田哲多(24歳)
2位 杉浦大和(1北)
3位 佐藤卓斗(13歳)

※原田哲多と杉浦大和が全日本選手権出場決定
○大会総評
上位を独占することができたが、試合内容には大きな課題を残した。今後の練習で「心・技・体・智」の全ての面をレベルアップさせ、全日本選手権で上位進出できるように日々精進していきたい。



優勝した原田選手
(顧問 古瀬泰之)

ソフトテニス部

令和2年度島根県高等学校ソフトテニス選手権大会
時 9月12日・13日
於 松江市宮庭球場

5ペアが新人戦でのシート権獲得

- 3位 神田好太郎(22歳)・岩崎遥平(15歳)
- 5位 木村藏人(13歳)・青木快生(14歳)
- B16 高橋拓真(13歳)・陰山晃成(12歳)
- B32 野津広人(23歳)・日野椋太(24歳)
- 川角悠太(1北)・江角虎哲(14歳)

○大会総評
新チームでの初めての公式戦であった。多くの課題が見つかったので、新人戦に向けて頑張っていきたい。

(顧問 佐々木雄志)

野球部

島根県高等学校秋季高校野球大会島根県大会
時 9月15日
於 松江市宮球場

2回戦

本校 2020001000
平田 111000132x 9 5

○大会総評

新チームとなり、初めての公式戦とな

った。中国大会出場を目指してチーム丸となって戦ったが、終盤に力尽きてしまった。これから先、冬を越えて一段とレベルアップした姿を見せてもらいたい。応援有難うございました。

(顧問 陶山浩史)

テニス部

島根県テニス新人大会
時 9月19・20日
於 石見海浜公園

ダブルス3位入賞、シングルスベスト8二人

〈男子シングルス〉
ベスト8 橋本脩平(21歳)
石川泰丞(12歳)

〈男子ダブルス〉
3位 橋本・石川

○大会総評

1週間前の練習試合を教訓に、選手がよく頑張ってくれ、いいテニスをしてくれました。これに満足せず、さらに進化させて欲しい。今大会もコロナウイルス感染防止のため、無観客での開催であった。(顧問 石川剛旦)



陸上競技部

第66回島根県高校新人陸上競技大会
時 9月19・20日
於 益田

- 800m 6位 水 歩夢(21歳)
- 三段跳 5位 柳谷恰映(22歳)
- 2年100m 6位 小片祐希(23歳)
- 400mH 5位 永岡歩望(24歳)
- 男子400mR 7位
- 柳谷・田中 陸(12歳)・永岡・小片

○大会総評

コロナ禍の中、開催も危ぶまれていたが、役員と選手の徹底した体調管理と三密回避を考慮した運営のもと、本校の選手も無事参加できたのは何より嬉しいことだった。今年は競技場での練習が限られ不安もあったが、リレーが予選を通過

して7位に入賞したことでチームの雰囲気も一気に良くなった。また、自己記録更新者数も昨年以上出るなど、来季が楽しみになってきた。

遠方まで応援に駆けつけてくださった保護者の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。今後も日々の練習を大切に頑張っていきたいと思えます。

(顧問 別所美喜子)

第59回島根県高等学校音楽コンクール

時 9月15日
於 島根県民会館

コロナ禍の中、生徒たちは万全といえる準備は出来なかったが、精一杯の努力をして本大会に臨んだ。本校からはピアノ部門へ2名、声楽部門へ8名、木管楽器部門へ8名、金管楽器部門へ5名、弦楽器部門へ1名の計24名が参加した。参加生徒は北陵高校生らしい素晴らしい演奏を披露し、結果は以下の通りとなった。

- 声楽部門 2位 杉森さくら(26歳)
- 3位 伊原弦希(36歳)
- 木管部門 1位 田島陽菜(35歳)
- 3位 島袋 茜(26歳)
- 金管部門 1位 川口利乃香(26歳)
- 3位 中林桃子(16歳)
- 弦楽部門 1位 中林桃子(16歳)

その他、各部門で多くの生徒が金賞を受賞した。本年も本校が多数上位入賞を果たすことが出来た。これも偏に、日頃からご指導いただいた音楽コースの先生方、応援していただいた地域の皆様、保護者の皆様のお陰であり感謝しております。今後も変わらず精進していきたいと思えますので、引き続きご支援賜りますようお願い致します。

写真部

第27回全国高等学校写真選手権「写真甲子園2020」
中国ブロック審査会

ブロック賞受賞!全国ベスト32入り!

今年は全てウェブで審査とレビューが行われた。本校は力及ばず、中国ブロック代表校には選ばれなかったが、本戦出

場チーム全18校以外のブロック決勝進出校62校中の上位14校に贈られる「ブロック賞」に選ばれ、全国ベスト32に入賞した。中国ブロックからは本校だけが選ばれた。

今年度は主力となる3年生の人数が2人だけであり、更には臨時休校の影響も受けて、部活動自体がほとんどできないという厳しい状況であった。しかし部長の角田翔大(31歳)を中心に、自分たちができることを精一杯頑張っていた。

本戦出場はならなかったものの、3年生の意志は後輩たちに受け継がれていくことを固く信じている。応援有難うございました。(顧問 村上 学)

令和2年度撮影技術大会 史上初の完全リモート開催

今年度の撮影技術大会はグループミートを使った完全リモート開催となった。東京工芸大学の5人の先生方と参加校がリモートでつながり、午前中は撮影技術講習会、午後からは事前に提出していた生徒たちの作品に対する講評が行われた。例年のように集まって一緒に撮影会をすることは叶わなかったが、講習会と講評会を通して、様々なことを生徒たちは学ぶことができたのではないかと、次年度は本来の形で大会を開催できることを祈念している。(顧問 村上 学)

公開授業(6年目研修)

去る9月15日、本校に着任して6年目を迎える鈴木雄介先生(1年5組 数学A)、多々納厚比古先生(1年1組 英語演習)の公開授業が行われた。

公開授業は、授業力の向上に向けて教科指導を研鑽する目的で、毎年実施されている。

2名の両先生は緊張感を持ちながらも質の高い授業を展開した。



保育実習

9月16日に雲市内の幼稚園で高校3年生普通コースの保育系列選択者が保育実習を行った。当日は園庭で「運動会っこ」を行い、綱引きや玉入れ、リレーなどの活動を通して、幼児とのかかわり方や心身の発達について学んだ。また、生徒たちが練習してきた劇や歌、ダンスの発表をさせていた。くなど、貴重な体験をさせていた。新型コロナウイルスの感染防止対策など、様々な配慮をしていただきながら無事に実習を終えることができた。お世話になった幼稚園の皆様にお礼申しあげます。



保育実習の様子

第51回 全国高等学校家庭科食物調理技術検定

時 8月30日
於 本校調理室

〔1級合格者〕 福岡 春佳(33回)
布野可菜美(33回)
〔2級合格者〕 藤原 香織(23回)

就職試験に向けた面接直前指導

就職面接指導始まる

9月8日(火)～11日(金)の日程で、今年度2回目の就職面接指導が行われた。3年生就職希望者は受験企業も決め、本番を想定しながら行った。緊張してうまく話せない生徒もいたが、この面接指導を生きとし、しっかりと準備をして本番を迎えて欲しいと思う。



就職面接指導の様子

中学校

第2回合同道徳

時 9月14日
於 北陵ホール他
9月14日7限に水谷厚志校長による合同道徳が行われた。谷厚志校長は「利己利他」の精神についてご講話いただき、人のためになること、人に喜んでほしいことを進んで行っていきなさいと、改めて考えることができた。



合同道徳授業の様子

【生徒の感想】 今日、お話を聞いて大切だと思うことがたくさんありました。まずドイツニールランドでの出来事では、相手に対する気遣いや相手に喜んでもらうという気持ちがあったので喜んでもらえたり、満足してもらったことができたと思います。私はこれから自分にできる精一杯のことをしたいと思いました。次に易しい仕事は相手に与えて、難しい仕事は自分でやるということが心に残りました。今振り返ってみると、今まで易しいことは自分でやり、難しいことは相手に任せていたと思います。これからは自分から難しいことに取り組んでいきたいと思っています。



黒田花音(中1)

出雲科学館 理科学習

9月15日(火)、出雲科学館において「科学技術の発展」のテーマで理科学習が実施され、中学3年生は出雲科学館で受け

る最後の機会だった。1時間目は新技術の例として、酸化チタンによる光触媒の効果により油污れが分解される様子や「IoT」に冷却した超電導物質にネオジム磁石を近づけると磁石が浮遊する様子をモニターで見たり、それを応用したりする最新技術の紹介。2・3時間目はプログラムによるロボット制御の実習に取り組んだ。プログラムとロボットの動きを相互に確認しながら、与えられた課題や発展課題の解決に取り組むと共に、最先端のロボットも使用したロボット同様に莫大なプログラムによって動くことを学んだ。最後に最先端ロボットの開発の現状と方向性、私たちの生活との関わり方などの説明を受け、学習を終えた。

校内弁論大会

9月3日に校内弁論大会が行われた。中学校では、北陵ホールと教室に分かれて実施した。中学校からは、高橋ゆかり(中1)と手銭優果(中2)が参加した。高橋はコロナウイルスの恐ろしさについて、手銭は祖父について自身の体験を通して発表した。在校生は、弁士の発表に真剣に耳を傾けていた。

令和2年度 第16回少年の主張 銅賞受賞

時 9月14日
於 向陽中学校

弁士 高橋 ゆかり(中1)
演題 ウイルスより恐ろしいもの
例年と違い、動画による発表となり、大会当日は各学校の校長先生方が出席された。弁士にとっては会場で発表する緊張感はなかったものの、完成度の高いものを目指して繰り返し撮影をする苦労があった。

会場セッティング、撮影、データ処理等で多くの先生方にご協力いただき、学生代表としてふさわしい動画が完成した。

今回の発表を機に、これからは中学生として社会の一員であることを自覚し、学校生活を過ごして欲しいと思う。(別所美喜子)

保育体験学習

9月17日、3年生は市内の2箇所の幼稚園、保育園で保育体験実習を行った。



保育体験学習の様子

【生徒の感想】 実習前に見たDVDではあまりよく見えなかった幼児の手や足の大きさなどが、実際に触れ合っても小さく、間違えて踏んでしまったらとても危険だなと思いました。体も小さく小さくて、まだまだ話をすることができないということも改めて分かりました。話をするときには、しっかりと自分がしゃがまないと伝わらないことや聞き取れないこともあったので、幼児と接するときには目線を合わせたなど、相手のことを考えて行動することが大切だと感じました。(篠原菜甫(中3))

家庭科で保育について学ぶ前は、保育はもっと単純なものだと思っていました。でも映像を見ると、幼児の色々な仕草にはきちんと理由があったり、年齢が上がるにつれてできることが増えたりと、「保育」というものの難しさを知りました。また、実際に幼稚園に行かせていただき幼稚園の先生方を見て思ったのは、保育をする上で一番大切なのは「笑顔」だということです。幼稚園の先生方はいつも笑顔で、その周りの子どもたちも笑顔で楽しそうでした。やはり子どもは、笑顔で楽しい人のところへ寄りついていくんだなと改めて思いました。そこで僕も笑顔で接してみると、子どもたちが自分から話しかけてくれたりしました。将来、自分に子どもができたときに、今日の実習で学んだことを生かしていきます。(奥田林大朗(中3))

作品と研究

令和二年度 学園祭

校内弁論大会 最優秀賞

『副賞』

奥井 寛太(3・5 踊)

四月二十六日。史上初のインターハイ中止。

休校中、このニュースを見たのは、ランニングに行こうとしていた時でした。インターハイに向けて、体力の強化を日課としていたのです。

一月にあった、全国選抜中国地区予選での先生の言葉が思い出されました。

「これほどに悔しい経験をすることはない。」

これは全国選抜まであと一勝、あと一本というところで勝ちきれなかった僕らへの言葉でした。でも「これでまだ終わじゃない」先生はそう言ってくれました。

「そうだ。この経験を生かして大本命であるインターハイにつないでいけばいいんだ」

悔しさを、そこにつなげることでなんとか力に変えることができました。それからは毎日の部活動も質が向上していき、全体の意識も高まってきました。そして4月の頃には、今年インターハイを狙えるところまでできていました。そんなときのあのニュースでした。

初めはこの状況に対する不安や不満をひたすら口にしていました。周りも同じ気持ちでした。ただ、不満を言い合い、一瞬の共感を得たところで何も事実は変わりません。直視しづらくなる一方でした。

僕らは誰かに、この気持ちはどこへ向けるべきなのか、正しいベクトルの方向を教えてもらいたかったのです。でも、世の中全体が混乱してしまいました。選手は言葉を失い、大人からは「今年の三年生はかわいそうだ」と悲観する声が聞かれました。

僕は中国大会の負けを次の大会への希望として、意識を強く持てるようになりまし。今回のことの中にも、希望に変えられるものがあつてほしい、そう願いました。

そんな頃に読んだある野球漫画の一場面にこんな言葉がありました。「甲子園なんてものは、ただの副賞だったんだよな」。目指していた大切なものを思い出した監督の言葉でした。この場面は、なにか心に刺さるものがありました。確かにインターハイに行きたくなかったわけではありませ。インターハイで、いやインターハイを目指す過程の中で、僕たちはチームで輝こうとしていました。熱い日差しの中で、最後のポイントが決まる瞬間。チームで得る勝利。今まで関わってくれたすべての人たちとチームであることを実感する日。目指してきたそんな瞬間は今も鮮明にイメージすることができません。

でも僕たちは、インターハイのためだけにソフトテニスをしてきたの

でしようか。インターハイを目指す中で、僕たちが得てきたものは消えません。それは技術的なことだけではなく、心の姿勢です。ソフトテニスをするこでつながってきた仲間たちです。たくさんの支えの中で得ることができてきたこれまでの日々です。

そう思うと、気持ちが開けました。今はインターハイという副賞がなくなっただけなのです。大きな副賞です。それがあること、どこまでできるか試せるし、もう少し、仲間と日々を続けられます。でも、副賞がもらえなくても、今持っているものを失ったわけはありません。

改めて周りを見渡すと、僕らはたくさんの方面から応援されています。身近な方々からも、新聞やテレビの報道でも、政治の分野でも、僕たち高校三年生はエールを送られていたのです。

インターハイに続いて中止になった県総体には、代替大会が計画されました。勝つても何にも繋がらない大会です。それでも、参加することを決めると周りほとても応援してくれました。自分が動き出して、改めてその応援に気づくことができました。大会があること自体、僕たちを応援する思いなのです。応援される者は中途半端なことはできません。応援に恥じないよう、やり遂げたいと思いました。

そして大会に臨み、やり尽くすことを目指しました。例年ならインターハイ出場権をとれたのに。確かにそんな思いもあります。でももうそ

れだけにとらわれません。僕はこの大会の一つ一つに懸けました。一つ一つがこれまでに僕が得てきたもので、それはプレーの面だけではありません。それを確認し、やり切れたから、副賞がなくても我慢できます。この大会ができたこと、そしてここまでつながってきたたくさんのことに感謝したいです。

他の部を見ても、今年の三年生は一番応援された世代だと思えました。僕たちは不幸な世代ではありません。むしろ、大切なことを確認できた強さを持つている世代です。

前ばかり見ていると、周りにもとからあつたものが見えなくなりました。この先にもこういうことはきっとあるでしょう。一歩ずつ足元を確認しながら、先へと歩んでいきたいと思っています。

今月の
1枚

「かじ」

森山百合香(1・6 舞)

